

# みんなの歴史散歩 No.16

たいらのありゆき  
いたび  
平有行の板碑 (町指定文化財)

社会教育担当 望月 暁

## 板碑って何？

板碑は鎌倉時代から戦国時代まで作られた石塔の一種で、死者の冥福や、生前に自分の死後の安楽を祈るため建てられました。九州から北海道まで全国各地にあります。埼玉県は特に数が多く、20,000基以上が確認されています。町内の数は約2000基で三沢に多く見られます。

図を見てみましょう(川勝平太郎『石造美術入門歴史と鑑賞』を修正)。板碑は五輪塔などとは異なり、厚みがないのが特徴で、石を板状に割って作ります。埼玉県に板碑が多い理由の一つは、板状に割りやすい緑泥片岩と呼ばれる石がたくさんあったからだと思います。先端は三角形に仕上げ、その下には二条線と呼ばれる二本の線が刻まれます。正面の形でいつ作られたか分かることがあります。二条線の下は塔身部と呼ばれ、

写真は今町内出土の板碑で、平有行(武蔵七党のひとつ見玉党の武将。鎌倉時代に活躍)の板碑と呼ばれています。長さ54cm、幅30cm、厚さは2cmです。完形ではありませんが、塔身部が残ったため多くのことが分かります。2つの種子の上に蓮座がわずかに見えることから、元々は三角形状に3つの種子が並んでいたと思われる。2つの種子は観音菩薩(左)と勢至菩薩(右)のため、3つ目は阿弥陀如来でしょう。阿弥陀如来を中央に、観音・勢至両菩薩を左右

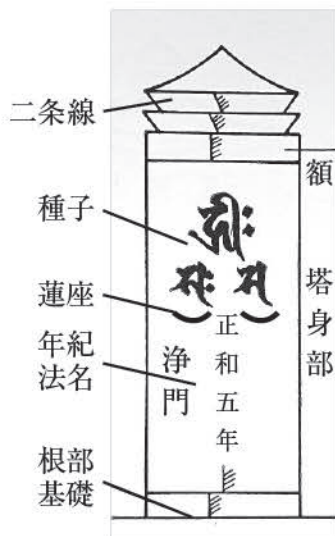
に配する形は阿弥陀三尊と呼ばれ、仏像でも広く見られます。年代は正和五年(1316年)九月八日で板碑が最も多く作られた時期です。板碑の最盛期に作られた名品といえるでしょう。

## 板碑に祈った人々

この板碑の魅力はそれだけではありません。板碑が作られた目的を思い出してください。亡くなったかたの冥福を祈ること、生きている間に自分の供養を行うことで、死後の功德をあらかじめ積むことであったはず。だからこそ多くの板碑には法名が刻ま

れるのですが、この板碑には平有行という俗名が記されているのです。

板碑を作った人は武士階層とされますが、平有行が生き残った鎌倉時代を過ぎると庶民にも広がるようになります。僧侶のもとに多くの人々が集まり板碑を作ることもあり、このような時には俗名が記されました。供養という目的は同じでも、その表現の形は時代や場所、人によってさまざまなのです。平有行という人物にも、俗名を書かざるを得ない隠れたエピソードがあったのかもしれない。



図：板碑



写真：平有行の板碑

7月

## 社会を明るくする運動 および青少年の非行・被害防止強調月間

犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい社会を築きましょう。

## 愛の募金にご協力ください

社会を明るくする運動の一環として非行防止と更生援助のため、「愛の募金運動」を実施します。皆さんのあたたかいご協力をお願いします。

問合せ 健康福祉課 福祉介護担当 ☎62-1233